

# 希望の鐘

第211号

ひとつのつぼみはいちどしかひらかない

文責：校長 佐々木

## 中学校で学ぶということ ～11月を迎えて～

市中体夏季大会、体育祭、秋季大会（新人戦）、文化祭……と大きな行事も、様々な制限中でも成功させることができました。一人一人の生徒の頑張りと保護者、地域の皆様の御理解・御協力のおかげです。本当にありがとうございました。

そして迎えた11月。特に大きな行事はないので、落ち着いて学習に取り組む月になります。

3年生は11月4日に親子進路説明会を終え、希望制による三者面談を行いました。義務教育終了後の進路選択に向けて本格的に動き出しています。



任命書を手渡しています。

1, 2年生は後期生徒会役員・各委員会の体制が整い、11月1日の全校朝会では各委員長に任命証を手渡しました。2年生の委員長を中心にスムーズに活動が行われています。

ところで、中学校というところには、たくさんの学びが転がっています。

例えば…ですが、

- 1 専門的な知識だけでなく、考え方や話し合い方を学ぶ「各教科の授業時間」
- 2 各教科での学びを生かして、様々な人と高め合ったり折り合いを付けたりする力を高める「学級活動の時間」
- 3 自分の役割を自覚し、みんなのために何ができるかを考え、気付く力を付ける「係活動や委員会活動での学び」
- 4 自分の力を高め、同じ目標に向かって仲間と励まし合い、喜びはもちろん悔しさの含めた充実感を分かち合う「行事や部活動での学び」
- 5 自分の気持ちを伝えることや人とつながりことの難しさや楽しさを実感する「日常生活での学び」

などが挙げられるでしょう。

これらの学びを通して、3年間で実社会で生き抜く術（技）を身に付けるのが「中学校」だと私は考えます。中学校での様々な学びは、社会に出たとき、きっと何らかの形で助けてくれるはずですよ。

11月は、じっくりと腰を据えて、全教職員で学びについて深く考え、生徒に力を付け、2学期のまとめとなる12月に向かっていきます。



今は散ってしまいましたが、見事な紅葉を楽しめるのも小中野中の素敵どころです。  
(白黒だとわかりにくいですが)

## 自分の道を探そう

### 令和5年度 第1回未来への架け橋講座

(10月31日実施)

本校のキャリア教育の一環として毎年開催している「未来への懸け橋講座」。様々な分野で活躍される方々からお話を聞き、自分の進む道を探す参考にしてほしいという思いから始めて、10年目を迎えました。

今年度の第1回目の講師は、本校卒業生で、ハレコレドットコムフロントエンドエンジニア (WEBデザイナー) の佐々木遥さん。PCを巧みに操作しながらお話をしてくださいました。

WEBデザイナーとは何か、その仕事の楽しさや大変なことは何か、社会に出る上で中学生のうちに学んでおくべきことは何か、ということの他に、ほぼオンライン勤務ということで、時間の組み立ての難しさや、顧客のニーズにこたえるため、自分が休日でも対応する場面が多いなど、今の社会ならではの貴重なお話を聞くことができました。参加した生徒たちは熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

お忙しい中来てくださった佐々木さん、ありがとうございました。

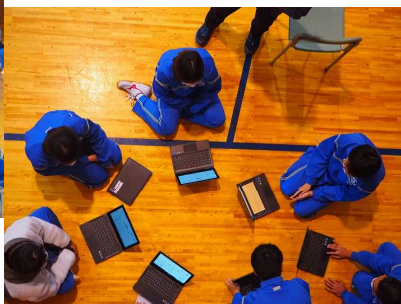


## これが令和スタイル

### 令和5年度第2回生徒総会

11月7日に行われた今年度第2回の生徒総会。今回は、紙媒体ではなく、必要な資料が入ったタブレットを手にしながらの総会となりました。

各委員会の活動計画への質問には、要望だけでなく励ましの言葉も入るなど、温かい雰囲気が進められました。



## 11月後半の行事予定

18日(金) 4次考査(5教科)

21日(月)~30日(水)

学校評価に係る保護者アンケート

保護者の皆様には1学期同様、お子様を通じてQRコードを配布いたしますので、スマートフォン等で回答くださるようお願いいたします。

23日(水) 勤労感謝の日

24日(木) 小・中ジョイントスクール研修会

25日(金) 4次考査(技能教科)

29日(火) 生徒朝会

未来への懸け橋講座②

(講師:看護師 木村様)

30日(水) 未来への懸け橋講座③

(講師:是川縄文館 小久保様)

## 12月の主な行事予定

1日(木)~9日(金) 三者面談週間

4日(日) 全校朝会

保護者参観日

5日(月) 4日の振替休業日

9日(金) 生徒朝会

(アンサンブルコンテスト壮行会)

計算コンテスト

10日(土)~11日(日)

アンサンブルコンテスト地区大会

未来への懸け橋講座②

12日(月)~16日(金) 清掃強調週間

13日(火) 生徒朝会

23日(金) 2学期終業式

また、第2部の話し合いでは、意見交換にタブレットの付箋機能を使い、視覚的にわかりやすい形で進められました。

今回のように「一人一台端末」の長所を生かした活用ができるよう、模索していきたいと思っております。